

# 第1学舎旧1号館をARでよみがえらせます！

AR

AR (Augmented Reality) は「拡張現実」と訳され、現実の世界で人が感知できる情報に「何か別の情報」を加えて、現実を「拡張」表現する技術です。例えばスマホをかざすと、現在の風景の中に古代の建物や人々が現れたり、本物の文化財に解説が加わったり…。今回は、あすかの庭に旧1号館をよみがえらせてみます。



大学キャンパスは、学びの場であり、大学の歴史そのものでもあります。第1学舎エリアは、千里山キャンパスの始まりの場であり、また1955年には創立70周年を記念して、現・簡文館などの学舎群が村野藤吾の設計で建設され、その景観イメージは、人々の記憶に今も強く残っています。

現在、「あすかの庭」として学生たちに親しまれている芝生の広場に、AR(拡張現実)の技術を用いて旧1号館の懐かしい景観をよみがえらせ、歴史の重層をリアルに体感できるアプリケーションを制作しました。今回の成果報告会では、大学のキャンパスや校舎のもつ意味、千里山キャンパスの景観の変化を振り返るとともに、今回のアプリの開発とその意義についてご説明し、現地でアプリを試していただきたいと考えています。ぜひご参加ください。



2018 **3.23** FRI 13:30-15:00

会場 = 関西大学なにわ大阪研究センター セミナー室 定員 = 50名

申込方法 = Eメールにて必要事項(①氏名②住所③電話番号)を記入の上、  
naniwa-osaka@ml.kandai.jp までお送りください。

- 13:30-13:35  
ご挨拶 橋寺 知子
- 13:35-13:55  
報告「寺院教場から校舎・学舎へ、  
そしてマルチキャンパスへー校舎・校地の変遷からみた関西大学の130年ー」  
市原 靖久
- 13:55-14:15  
報告「関西大学千里山キャンパスの景観の変遷ー第1学舎旧1号館を中心にー」  
橋寺 知子
- 14:15-14:35  
報告「AR(拡張現実)を活用したスマートデバイスの可能性」  
井浦 崇
- 14:35-15:00  
現地説明会 現地説明会：ARアプリを使ってみよう

今回の催しは、2017年度関西大学創立130周年記念特別研究費(なにわ大阪研究)

研究代表：橋寺知子、研究課題：「関西大学千里山キャンパスの景観変遷と可視化」の研究成果公表として開催するものです。

お問合せ：関西大学 なにわ大阪研究センター naniwa-osaka@ml.kandai.jp